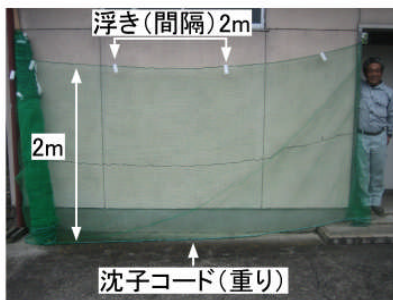


ダム湖に生息するコクチバスを駆除する方法

外来魚であるコクチバスなどが、在来魚を食べてしまうことによる生態系への影響は、埼玉県でも問題となっています。

そこで、ダム湖に生息するコクチバスを駆除する方法を開発しました。産卵期に、産卵場所を刺網または動物よけネット(商品名)で囲うことで、産卵する親魚の侵入を防ぎ、産卵を阻止します。名栗湖(有間ダム)での試験では、産卵床数が前年と比べて約70%減少しました。産卵期以外には、その年の春に生まれた魚を電気ショックカーポートを使用して捕獲し、生まれて1年以上過ぎた魚は、刺網を使用して捕獲する方法が効果的でした。



動物よけネット
(浮きと重りを取り付けて使用)



動物よけネット設置例



電気ショックカーポート

コクチバスの大きさと時期に応じた駆除・繁殖抑制手法

コクチバスの大きさ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
 大型魚 (体長200mm以上)		刺網(5節) 産卵場を囲い ・親魚の捕獲 ・産卵阻止 *注意1			刺網(7節以上) 7月~9月 水深10mより浅い水深に刺網を設置 10月以降 コクチバスの生息する水深が10mより深くなるので、その水深も捕獲できるような長い刺網を用いる				
 中型魚 (体長100~200mm)									
 小型魚 (体長100mm以下)				電気ショックカーポート					
 卵 仔魚	動物よけネット 産卵場を囲い ・産卵阻止 *注意2								

*注意1 コクチバス以外の魚が多く網に掛かる場合には、動物よけネットを用いて繁殖抑制のみを行った方がよいでしょう。

*注意2 動物よけネットは、卵や仔魚を駆除するものではありません。産卵をブロックするためのものです。網を設置した後も週に1回、網の中に産卵されてないか確認しましょう。産卵床が確認された場合は網を用いて卵や仔魚を取り除きましょう。